

国語

◆大設問ごとの内容と結果◆

大設問	主な出題内容	設問数	配点	受検者平均点	受検者得点率(%)
問一	漢字の読み取り、同音の漢字、俳句	9	20	16.58	82.92
問二	文学的な文章の読解	6	24	20.89	87.03
問三	説明的な文章の読解	9	30	20.35	67.83
問四	古文の読解	4	16	10.56	66.00
問五	資料を活用した問題	2	10	4.78	47.80
		30	100	73.16	—

(「令和7年度神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果」より作成)

(参考：合格者平均点73.8)

◆概要◆

全体で30問という問題数や出題形式に変化はありませんが、全体の文章量は昨年度の約8600字に比べると今年度は約8300字と減少しました。難易度についても昨年度の平均点63.2点から約10点上昇しており、マークシート形式になった2017年以降で比較しても高い得点といえます。ひねった問題は少なく、基本的な内容が問われています。長文の要旨を素早くつかむ読解力が求められており、記述問題を含めて出題形式に慣れておく必要があります。

◆大設問ごとの出題傾向と難度◆

問一：漢字の読みとりでは「^{はか}諮る」がやや難しい程度で、どれも基本的な読み方を確認するものでした。昨年同様、「竹刀」のような熟字訓が出題されているので、常用漢字表の付表も確認しておく必要があります。書き取りに相当する問題では「^{てっぺい}徹底」以外はすべて小学校で履修した漢字であることから、確実に得点する必要があります。俳句の鑑賞は、月が「左右」に分かれることで「去年今年」が変わる大みそかの情景を読み取るという問題で、半分弱の低い正答率でした。韻文は例年短歌と俳句が交互に出題されており、来年は短歌の出題となるでしょう。いずれも正誤を問う選択肢では表現技法の知識より、作者の心情や情景をいかに正確に読み取れるかが問われます。

問二：出典は入試頻出だった「線は、僕を描く」の続編にあたる、砥上裕将「一線の湖」でした。小学校の出張授業における水墨画家の「僕」が、「水帆」のやりとりを通じて、絵を楽しむことを再発見するという場面です。登場人物の心情の変化を、その仕草などからも読み取る必要があります。また、朗読の仕方も例年通り出題されています。文章は会話部分が多く読みやすく、紛らわしい選択肢もないので、丁寧に読み進めていけば問題なかったと思われます。

問三：自己デザインと〈私〉との関係について述べられた文章です。抽象的な内容ですが、〈私〉をデザインするという感覚は、SNSで自己演出することが一般的な現代においては比較的イメージしやすかったのではないのでしょうか。例年文法問題は問三の本文に絡めて出題されています。「希薄」の同意語を答える問題は正答率がおよそ5割と例年より低く、本文に当てはめようとする混乱してしまう出題でした。新傾向として、全体理解を問う問題が出題されました。難易度は平均的ですが、(オ)や(キ)のように紛らわしい選択肢もありますので、本文と丁寧に照合する必要があります。

問四：青砥左衛門という人物が、自らの利害にとらわれず道理と公正を貫いたことが書かれています。敬語もほとんどなく、現代語訳を参考にしながら読み進めていけば内容が把握できるので、昨年より易化したといえます。

問五：「目の前にいない友人とのやりとり」に関する問題です。昨年と同様の形式ですが、記述量は三十字以上四十字以内と若干増加しています。「短期間」「特別」という指定語句のある場所を中心に、手紙のやりとりではできないことと、手紙だからこそできることを探してまとめればそれほど難しくありませんが、時間の問題か、はたまた最初から敬遠したのか、正答率は3割を切っています。